

## 授業方法について独自に工夫していること【人文社会系】

今回初めてプレゼンテーションソフトを用いた授業を国語科研究BⅡ、国語科教育CⅠにおいて行った。結果的には問8の回答において①強くそう思う、②ややそう思うの合計でBⅡが78.4%、CⅠ72.4%となり、CⅢの53.9%と20ポイント近くの差がついた。しかし、問1や問2の差は3つの授業で差がないことから、講義科目としてプレゼンテーションソフトを用いた授業方法をとることは学習の質を変えるものではないということもわかったので、「独自の工夫」には挙げられないかもしれない。そのほかの方法に独自の工夫をした覚えはない。きわめてシンプルな授業である。

- 1.1年(AⅡ・BⅡ)では、国語科の歴史・理論・教材研究など基礎基本を学び、3年前期(CⅡ)は、教育実習前に指導案の書き方を習得し、模擬授業を行っている。3年後期(CⅢ)においては、指導案を受講者分印刷し研究授業の振り返りを行い議論した。教育実習に対応した指導過程としている。
- 2.学習指導要領と国語教育界の動向および教育現場での実態をふまえた教育内容となるよう心掛けている。
- 3.将来教員となることを前提として、自ら課題を発見し、それについて主体的・自立的に考えることを学生に求めている。
- 4.言語とは何か、教育はどうあるべきかといったラディカルな思考を促したいと考えている。

実際に教育現場に関わっているゲストを呼んで実際の話の聞いたり、ボランティアに参加させるなど、外国にルーツを持つ子ども達の教育現場を身近に感じられるようにしている。

「独自」に工夫している点は、恐らくないと思います。これまで見てきた様々な授業から、自分に活かせる点を取り入れたり、テレビ番組でヒントとなるような「わかりやすさ」や「伝え方」、「疑問」や「課題」の提示の仕方など、日常生活の中から活かせる点を考えて取り入れたりしています。シラバスは、少なくとも3回は書き直して、受講生の実態や要望を反映させ、毎年、改善を加えています。社会科という教科の特性上、実際の社会で活躍する人や専門家との連携を図りながら、授業に活かしていけるように心がけています。

言語・文学・国語教育の専門的な研究の動向と、現場での実践との間をいかにして関連付けるかをテーマに、具体的に教科書教材にそくして説明をし、教材観を文章化したものを作成させること。また、基礎知識に関する小テストを行ったこと。

教育実習直後のこの時期であるので、授業実習で体験した成果と課題を踏まえて、その課題を解決できるヒントを得られるような、実践的な授業スキルを身に付けられることを目標に設定した。具体的には、模擬指導案作成とそれによる模擬授業、事後協議会での相互検討などを取り入れた実習形式とし、特に事後協議会では、生徒間の話し合いが生まれた授業であったかどうかを観点として重視した。また、生徒の見方・考え方を育てる社会科授業を意識して構想をさせるために、現場の授業実践をまとめた図書を、参考資料として活用した。

- ・学校現場における授業者として、具体的にかつ有効に活用できるよう、できるだけ実践に生きる授業内容を心掛けた。
- ・教師の一方的な説明に終始しないよう、学生の意見や考えを引き出すことに努めた。

学生が、とくに自分の話し方(表現力)について意識できるように、5分程度のお話を発表する機会を設け、一人ずつ学生が相互に採点しコメントを書いて評価するようにしている。

50人以上の授業ではありますが、すべての学生とできるだけ一対一の関係を作るよう努力しました。そのためには、学生全員に授業日記を書いてもらい、必ず読んでコメントをしてその都度返却しました。

- ・教育実習直後の講座だったので、研究授業の反省から課題を明確にさせて、修正指導案作成を中心に置いた。
- ・講義形式の時間を短くし、アクティブラーニングを意識して、授業を進めた。
- ・グループ討議・・・3班編成にして、授業づくりの基礎を講義しながら、グループで代表指導案を検討していった。

グループで討議する過程で、各自の指導案見直しに反映していった。

修正指導案の発表を検討することで、授業づくりの基礎を学びなおした。

- ・実技演習・・・板書の基本技能の習得のため、実際に黒板で書く活動をした。
- ・模擬授業・・・読書指導における「読み聞かせ」を何度も体験した。
- ・受講者が、12人と少人数だったので、意見交換や実習が充実してできた。

2クラスともに、50名近くの履修生がいたため、講義中もグループワークを取り入れたり、発表をグループで行えるよう工夫した。

授業内容を内面化するために、グループでの話し合い・活動を重視しています

社会科研究B I の授業内容において、地理的分野に重点を置いて、授業を進めている。その中で、地図に関する技能や地理的知識の空間認識力や地理的な見方・や考え方を養成することが大切であると考えている。地理学はフィールドワークの科目とも言われ、可能な限り野外に出かけ、その中で地理的な見方や考え方など培うことが重要であると思う。しかし、授業の中で、いろんな地域へ出かけて、様々なことを観察することは困難である。そこで、授業に関係する地域の様々な事象について、可能な限りスライド等を導入して、その地域についてそれぞれが観察してもらい、地理的な見方や考え方の養成に繋がるように心掛けている。さらに、地理的な見方や考え方の実践を目指して、地域調査を課している。

社会科研究B II の授業内容において、地理的分野に重点を置いて、授業を進めている。その中で、地図に関する技能や地理的知識の空間認識力や地理的な見方・や考え方を養成することが大切であると考えている。地理学はフィールドワークの科目とも言われ、可能な限り野外に出かけ、その中で地理的な見方や考え方など培うことが重要であると思う。しかし、授業の中で、いろんな地域へ出かけて、様々なことを観察することは困難である。そこで、授業に関係する地域の様々な事象について、可能な限りスライド等を導入して、その地域についてそれぞれが観察してもらい、地理的な見方や考え方の養成に繋がるように心掛けている。さらに、小学校3・4年生で行う町歩き学習に対応して、受講生の皆さんに身近な地域の町歩きを実施してもらうことにより、具体的な地理的な見方や考え方の習得を目指している。

- ・学生さんが主体的・協同的に学ぶことができるように、4人一組で班を作り、生活科の理論と実践の資料をもとにして、少人数での班の討議や、発表・板書・司会等の役割分担しながら全体での発表など、参加型の授業になるように工夫している。
- ・生活科の理論と共に、実践事例を通して、生活科についてのイメージがわくような資料の準備を心がけている。
- ・学生さん自らが主体的に考えて取り組むことで、教師への意欲と実践的な力量形成につながるような授業形態を工夫するようにしている。
- ・新聞記事の切り抜きと壁新聞作り、発表と交流、大学生生活を支えてくれる人へのインタビューなど、体験型の授業を取り入れるように工夫している。

- ・自分の現場経験を活かした資料(文書・映像)を各種用意して、それについて議論させた。
- ・現場経験者で、現在大学教授をしておられる方の実践記録を読み、グループ討論と全体討論をさせた。
- ・研究発表会に参加する機会を設け、現場の生の様子にふれさせた。
- ・体験学習として石器作成に取り組みせ、それをどう実際の授業に活かしていくかを考えさせた。(実体験をすることの価値についても議論させた)

授業開始時には、学生間で前時の授業内容を確認し合い、授業終了時には、各自その日の授業の振り返りをさせています。毎時間グループ活動を取り入れ、互いに発言させることで「伝え合う力」を高め、理解を深めるようにしています。

科目の性格から、指導者になった場合を想定し、指導力が身につけられるよう授業実践中心の学習をさせた。自らの経験を中心に説明を加えた。

できる限り、翌年度の教育実習や、今後教員になった時に有益な活動になるよう、授業内の活動を考えたり、そのための議論等をしています。模擬授業の時間も、グループ分けにしていますが、より長い時間を設定していますので、実習時の授業をイメージしやすいかと思います。

4学年にわたり、全365時間分の小学校社会科の教材研究を90分×15回でフォローするのは無理なところである。そこで、現場に立った時に、単元目標から降ろして学習内容を明確にし、どのような教材研究を進めたらよいかということについて自ら進められるような発展性を培うことを求めた。

そのため、社会科で扱う事象についての見方・考え方を、小学校3学年社会科の第1単元「学校のまわりの様子」で扱う5つの条件＋歴史的条件をもとにして、本学周辺を学区に見立て、地形図の読み取りや観察、計測等を交え探究し、同時に、それらの見方・考え方で学生個人個人の出身学区で適用・考察し、レポートにまとめるという二重構造で展開した。

## 今回出された成績について 【人文社会系】

授業の難易度が④難しい、⑤難しすぎるが合計でCⅢ34.6%、CⅠ29.8%、BⅡ17.8%、と学年を上がるごとに高くなっていることに対して、出した成績は相対的に易化しているかもしれない。最も難しいと感じているCⅢにおいて週当たりの学習時間が他の科目に比べ最も多いので、成績にはその頑張りを認めたい。

「問1 この授業で、新しい考え方や知識・技能が身についた」において「①強くそう思う」「②ややそう思う」を合わせて、「AⅡ」97.9%、「BⅡ」93%、「CⅡ」100%、「CⅢ」100%、「CⅣ」100%とあり、「問10 この授業の教育目標が達成できたと思いますか」もほぼそれに近い数値となっていることから、授業の目標は達成されていると考えている。

各質問項目の結果を見ることにより、今回の授業の反省点、次回の授業に向けての改善点等が明らかになりました。

授業の内容もテーマも難しく、授業の中でもディスカッションに加え、課題や発表をやり遂げることは、受講生にとってかなりハードだったと思います。それでも、最後まで真摯に取り組み、力をつけていってくれたことは、本当に頼もしく、ありがたく感じました。今回出した成績は、受講生の努力が反映されていると思います。

評価は小テスト五回分のみを出題範囲とした試験と提出物(800字の教材観)とによる。試験は出題範囲を限った到達度評価的なものであり、各人の努力が明確に反映されている。提出物も下書きを一度提出させ、書き方についても実例を用いて指導した。理想的には、個別に指導ができればよいのだが。

・反省点も多く、自らの指導を振り返ることができるよい機会となった。

全員がA以上の成績に精一杯支援、指導することが教員の責務だと思っています。怠けている学生に点を与えることはしませんが、頑張った学生にはそれなりの評価をします。

・教育実習直後の国語科3年生ということで、授業づくりの難しさややりがいを感じていたもので、どの学生も真摯に臨んでいる姿があった。  
・現行学習指導要領では、「習得」と「活用」を大切にしているが、「教え定着させること」と「個性的に応用していくこと」の区別について、学生にもっと明確に意識させさせたい。  
・意見をまとめたり、感想を書いたりする活動に対して、大変成長した学生が多かった。

出席を重視しています。

成績に関して、シラバスにも記載しているように、地域調査、そのプレゼンテーション、レポート、課題提出状況、授業態度などを勘案して、総合的に評価している。定期考査で評価するのではなく、地域調査、課題、日ごろの学習意欲などを基に総合的に評価することを心掛けています。課題についても、できる限り負担が大きくならないように、配慮したつもりです。

成績に関して、シラバスにも記載しているように、町歩き、そのプレゼンテーション、レポート、課題提出状況、授業態度などを勘案して、総合的に評価している。定期考査で評価するのではなく、町歩き、課題、日ごろの学習意欲などを基に総合的に評価することを心掛けています。課題についても、できる限り大きな負担にならないように配慮したつもりです。

・本講義は、20名の受講者であり、意欲的な学生さんが多く、気持ちよく授業をすることができ、感謝している。

・毎回のワークシートを読むと、学生たちが熱心に取り組んでいたことが伝わってきた。試験の答案も、とてもすばらしいものが多く、妥当な成績であったと考えている。

授業時の提出物、課題、レポート、書写の実技などを総合しての評価でしたが、授業の取り組みにおける意欲が成績に出るため、上位層と下位層にかなり開きが出てしまいました。

一人ひとりの技量アップを図る内容だが、それぞれが別々の内容で実施したので評価は難しかった。

全体的に悪くはないですので、今後さらによりよいものにしていければと思います。

前期に比べて、出席ポイントを40%から20%に減じた。その分、レポートと毎時の記述・考察内容の比重を高くした。そのことにより、学生の発想や視点の良さ、努力した点等を細かく評価することができて、適切な評価ができたのではないかと思う。

## アンケート結果を受けて改善したいところ 【人文社会系】

問2の項目で④、⑤の項目のポイントがやや高めであるように思うので、もっと調べ学習的な方法をとる必要があるかもしれない。

今回のアンケートで特徴的な点を挙げるとすれば、授業自体には満足していても、それを「自分で問題点を深く考えた」とか「さらにその思考に基づき行動した」となると、「③ どちらともいえない」「④ あまりそう思わない」の数値が増えるという点である。つまり、学生は自分からさらに学びを展開するということはしていないということである。授業外の学びについても、今後意識的に働きかけていきたい。

ゲストを呼ぶにあたって、事前に何らかの活動を取り入れたいと思いました。ゲストの授業が独立してしまわないように工夫したいです。

前期の授業で、週当たりの学習時間の少なさが大きな課題でしたが、後期は、その点を改善して、毎回の授業の予習や復習のための課題シートを作成して、提出を求めたところ、1人を除き、全員の学習時間が増加した点はよかったです。ただ、提出された課題シートを見ると、課題に対する取組に差が見られるため、受講生が取り組みやすい課題の設定の仕方と徐々に難易度をあげていく課題の内容について吟味したいです。教員と受講生とのコミュニケーションについては、77.5%の受講生は、肯定的な回答をしています。20%の受講生は、どちらともいえないという回答をしています。そこで、課題に対するフィードバックを丁寧に行うことで、よりよいコミュニケーションを図っていきたくと考えています。

「問13 この授業のための週当たりの学習時間」を増やせたらと思う。主体的な取り組みを重視する上で。

教員とのコミュニケーションが上手くとれていたかという評価が、やや低かった。授業のまとめ時に学生の感想を授業日記に書いてもらい、それを次時の導入時で取り上げているが、まだ一方通行の感じがするのであろう。前時の授業の成果と課題として考えを共有できるように、もう少し丁寧に扱うように心がけていきたい。

・授業の内容が、十分に、学生の生きる力になっていない。その場限りのもので終わっている。個々に課題意識を持ち、主体的に解決していこうとするレベルまで高めなければ、思考の深まりも発展性も生まれない。今回のデータを基に、指導方法を工夫していきたい。

毎回ではないが、1回の授業の中で、講義をする時間が長すぎるという指摘を受けた。従来は、授業内で講義後に、学生が学んだことを確認するために課題を与えて提出する方法をとっていたが、課題を家庭学習とし、授業では学生同士で課題について意見交換する時間を、もう少し採り入れたいと思う。

自分自身、1回の授業のために、さまざまな反省をまじえて6時間程度かけて準備しております。学生からの評価は甘んじて受け入れますが、手を抜かない授業者でありたいです。

・「教員とのコミュニケーションはうまく取れる。」の項目で、12人という少人数であるにもかかわらず、コミュニケーションをもっと取りたい旨が読み取れた。グループ討議の際には、さらに助言する場面を多くしたい。

(M2)

設問に対し、「どちらともいえない」や「全くそうは思わない」などの回答も数名あったので、再度見直し授業構成の工夫すべき点を考えたい

(S2) 専門科目ではない学生への授業であったにもかかわらず、比較的高評価ではあったが、自ら興味をもって調べるというところまではいたらなかったので、もう少し授業内容を再考したい。

47名中16名が1年の時に受講していました。彼らがすぐに直接申し出てくれれば 導入部も違う形で授業しましたが、まさかそういうことがあると思っていませんでしたので、導入部は同じ授業内容でした。もちろんメインの内容は違うものでした。授業の問題を直接担当に申し出ることをしないということはルール破りだと思いますので、とても残念です。

90分の授業の中で、通常の授業内容に加えて、授業に関係する内容のスライドを用いることが多く、内容的に盛り沢山になる傾向があったので、今後は、さらに教材の精選に努めたい。

・問3の「授業を受けての調査・新たな思考・行動」という項目が一層身に付くような授業のあり方を研究し、授業改善に努めていきたい。  
・学生さんの主体的な参加を願って、班での討議や全体での発表・討論を授業に組み込んでいるが、話し合うことの意義や討論の仕方、コメントの力などを練り上げるように努力していきたい。  
・中間レポートや講義感想など、学生さんが自ら学んだことを振り返り書き綴ることを重視して位置づけているが、さらに書くことの意味づけや書き方などの工夫をしていきたい。

・高等学校の内容を多くしてほしいという要望が書かれていたが、授業では合計5回程実施している。歴史分野が多くなってしまったので、今後考えていきたい。

学生の数が多いため(70人余)、マイクを使用し、進み具合を考慮しながら授業をおこなっていますが、理解の徹底を図るために、使用するプリントや板書の内容について今後も検討していきたいと思います。

本学において初めての経験であったが、おおよそ目標を達成したように思う。

PowerPointの提示の仕方は、もう少し分かりやすいように改善していく方がいいかと思いますし、活動内容も、受講者中心の内容のものをもっと増やす方向で考えています。

後期の学生たちには、授業内容→その内容に応じた出身学区の調査、考察を内容ごとに期限を設け、進めていったので、「身になった」という感触があり、それが評価に現れたかと思う。ただし、そのような流れにもすり抜けてしまう学生が若干いて、出身学区のレポートにおいて、最終提出時に困ったようだった。提出物には、コメントを付けて返しているが、そこで提出していない学生が、すり抜けてしまいがちなので、授業時間を割いても、細かな指導を進めていく。